



図書館員が選ぶ この一冊

27

『長いお別れ』中島京子/著 文藝春秋

三人姉妹の父・昇平は、ある日、高校の同窓会に出かけて行くが、会場にたどり着けず帰宅する。“認知症”…家族のことも自分のことも、少しずつ分からなくなっていく病気。物忘れだけでなく、銀紙に執着したり、物が捨てられない父の奇行に戸惑う家族をよそに、緩やかにしかし確実に病状は進んでいく。昇平が亡くなるまでの10年間の日常をつづった物語。



どの家庭にも起こりうる話で心が重くなるかと思えば、昇平と家族のやりとりにはフツと笑わされる。いつまでも元気でいると思っていた親と過ごせる時間に限りがあることを、改めて感じさせる。

